

(無断転載を禁ず)

受験番号： _____
 生年月日： . . . _____
 氏 名： _____

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

第117回簿記能力検定試験

2級工業簿記①

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第1問 (20点)

日ビ工業株式会社の下記資料に基づく一連の取引を仕訳で示しなさい。なお、使用する勘定科目は下記の中から適切な科目を選択し、それ以外は使用しないこと。

[勘定科目]

製造間接費	材	料	仕	掛	品	賃	金	給	料	製	品
買掛金	売	上	原	価	賃	率	差	異	製造間接費差異	現	金
材料消費価格差異	当	座	預	金	預	り	金	減	価	償	却
										累	計
										額	修
										繕	引
										当	金

- 材料4,830,000円(6,000kg)を掛で購入した。なお、購入に際し、引取運賃30,000円が発生しており、代金は現金で支払った。また、材料の購入原価は、購入代価に引取運賃の実際発生額を含めて計算している。
- 材料費を予定消費価格(815円/kg)により計上した。なお、当月の実際消費量は直接材料が5,630kg、間接材料が420kgであった。
- 当月の材料消費価格差異を計上した。なお、材料の月初棚卸高は324,800円(400kg)であり、実際消費価格の計算は先入先出法を採用している。
- 材料の月末実地棚卸量は330kgであった。帳簿棚卸高と実地棚卸高の差は正常な範囲内であるため、これを製造原価として計上した。
- 直接工の当月賃金支給総額は2,990,000円であり、源泉所得税や社会保険料等の預り金447,750円を差引き、残額は現金で支払った。
- 直接工の労務費を予定消費賃率(1,100円/時間)により計上した。なお、当月の就業時間は2,700時間であり、その内訳は直接作業時間が2,200時間、間接作業時間が480時間、手待時間が20時間であった。
- 当月の賃率差異を計上した。なお、直接工の前月末未払額は325,000円(計上済)であり、当月末未払額は320,000円(計上済)であった。
- 製造間接費を直接労務費基準にて予定配賦した。なお、予定配賦率は直接労務費の150%である。
- 当月分の工場減価償却費を計上した。なお、年間工場減価償却費は5,040,000円である。
- 当月の製造間接費差異を計上した。なお、製造間接費実際発生額は上記取引より判明する金額に、その他間接労務費および間接経費2,304,900円(計上済)を合計した額である。

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

(無断転載を禁ず)

受験番号： _____

生年月日： _____

氏 名： _____

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

第117回簿記能力検定試験

2級工業簿記②

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第2問 (20点)

日ビ工業株式会社の名古屋工場では、単純個別原価計算を採用している。下記資料に基づき各問に答えなさい。

1. 製造・販売に関するデータ(当月末時点)

指 図 書 番 号	直接材料消費量	直接作業時間	備 考
No. 403	880kg	280時間	前月製造着手, 前月完成, 当月販売
No. 404	850kg	270時間 [内, 前月分100時間]	前月製造着手, 当月完成, 当月販売
No. 501	960kg	310時間	当月製造着手, 当月完成, 当月販売
No. 502	820kg	260時間	当月製造着手, 当月完成, 当月販売
No. 503	930kg	300時間	当月製造着手, 当月完成, 当月末在庫
No. 504	900kg	150時間	当月製造着手, 当月末仕掛中

注：直接材料は製造着手時にすべて投入される。

- 直接材料費は予定消費価格1,500円/kg, 直接労務費は予定消費賃率1,200円/時間にて計算している(前月も同額である)。
- 製造間接費は直接作業時間を基準に年間を通じて予定配賦している。製造間接費年間予算額は27,360,000円, 年間予定直接作業時間は14,400時間である。
- 当月の実際直接材料費は5,433,050円, 実際直接労務費は1,433,950円, 製造間接費実際発生額は2,291,000円であった。

[問1] 当月末の原価計算表を作成しなさい。

原 価 計 算 表

(単位：円)

指 図 書 番 号	No. 404	No. 501	No. 502	No. 503	No. 504	合 計
月初仕掛品原価		—	—	—	—	
直接材料費	—					
直接労務費						
製造間接費						
合 計						
備 考	完成・引渡	完成・引渡	完成・引渡	完成	仕掛中	—

[問2] 当月末の仕掛品勘定を作成しなさい。

仕 掛 品

(単位：円)

前 月 繰 越 ()	製 品 ()
材 料 ()	次 月 繰 越 ()
賃 金 給 料 ()	
製 造 間 接 費 ()	
()	()

[問3] 月次損益計算書を完成させなさい。なお、原価差異は当月の売上原価に加減すること。

月 次 損 益 計 算 書

自 X1年5月1日 至 X1年5月31日

(単位：円)

I 売 上 高		10,500,000
II 売 上 原 価		
1. 月初製品棚卸高	()	
2. 当月製品製造原価	()	
合 計	()	
3. 月末製品棚卸高	()	
差 引	()	
4. 原 価 差 異	()	()
売 上 総 利 益		()

(無断転載を禁ず)

受験番号：
生年月日：
氏 名：

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

第117回簿記能力検定試験

2級工業簿記③

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第3問(20点)

日ビ工業株式会社の千葉工場では、累加法による実際工程別単純総合原価計算を採用している。製品は、第1工程の始点で材料を投入し加工を行い、第2工程の始点で第1工程完了品を投入し加工を行い完成する。なお、月末仕掛品の評価方法は先入先出法を採用している。下記資料に基づき各問に答えなさい。

1. 生産データ

	第1工程	第2工程
月初仕掛品	400kg (1/2)	400kg (3/5)
当月投入	1,850	2,000
合計	2,250kg	2,400kg
正常減損	—	50
月末仕掛品	250 (2/5)	350 (2/5)
当月完成品	2,000kg	2,000kg

注：(1) ()内は加工進捗度を示す。

(2) 第2工程の正常減損は工程の始点で発生した。なお、正常減損費は度外視法により処理すること。また、正常減損はすべて当月投入分から生じたと仮定する。

2. 原価データ

(1) 月初仕掛品原価

	第1工程	第2工程
直接材料費	128,640円	—
加工費	92,900円	127,200円
前工程費	—	321,000円

(2) 当月製造費用

	第1工程	第2工程
直接材料費	591,260円	—
加工費	873,050円	997,500円
前工程費	—	? 円

[問1] 工程別総合原価計算表を完成させなさい。

工程別総合原価計算表

(単位：円)

	第1工程			第2工程		
	直接材料費	加工費	合計	前工程費	加工費	合計
月初仕掛品原価						
当月製造費用						
合計						
月末仕掛品原価						
完成品総合原価						
完成品単位原価	@	@	@	@	@	@

[問2] 下記の仕訳を示しなさい。なお、使用する勘定科目は下記の中から適切な科目を選択し、それ以外は使用しないこと。

- 第1工程完成品原価を第2工程仕掛品勘定へ振替える仕訳
- 第2工程完成品原価を製品勘定へ振替える仕訳

[勘定科目]

材 料 加 工 費 第1工程仕掛品 第2工程仕掛品 製 品

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				

(無断転載を禁ず)

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

受験番号： _____

生年月日： _____

氏 名： _____

第117回簿記能力検定試験

2級工業簿記④

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第4問 (20点)

日ビ工業株式会社の札幌工場では、標準総合原価計算を採用している。下記資料に基づき各問に答えなさい。

1. 標準原価カード(製品1個あたり)

摘 要	標準消費量	標準価格	金額
直接材料費	7 kg	@ 500円	3,500円
直接労務費	4 時間	@1,000円	4,000
製造間接費	? 時間	@ ? 円	?
合 計			<u> ? 円</u>

注：製造間接費は公式法変動予算を採用し、直接作業時間を基準に標準配賦している。なお、変動費率は500円/時間、年間固定製造間接費予算額は71,400,000円、年間基準操業度は102,000時間である。

2. 生産・販売データ

月初仕掛品	500個 (0.4)	月初製品	200個
当月投入	<u>2,000</u>	当月完成品	<u>2,100</u>
合 計	<u>2,500個</u>	合 計	<u>2,300個</u>
月末仕掛品	400 (0.5)	月末製品	300
当月完成品	<u>2,100個</u>	当月販売品	<u>2,000個</u>

注：(1) 直接材料は工程の始点で全量投入される。

(2) ()内は加工進捗度を示す。

3. 実際原価データ

直接材料費	6,954,750円(実際消費量 14,050kg)
直接労務費	8,436,840円(実際直接作業時間 8,420時間)
製造間接費	10,070,000円

[問1] パーシャル・プランにより当月の仕掛品勘定を完成させなさい。なお、能率差異は変動費率により計算すること。

仕 掛 品		(単位：円)
前月繰越 ()	製 品 ()	
材 料 ()	材料消費数量差異 ()	
賃 金 給 料 ()	労働賃率差異 ()	
製造間接費 ()	労働時間差異 ()	
材料消費価格差異 ()	能 率 差 異 ()	
予 算 差 異 ()	操 業 度 差 異 ()	
	次 月 繰 越 ()	
	<u>()</u>	<u>()</u>

[問2] 当月の月次損益計算書を作成しなさい。なお、原価差異は当月の売上原価に加減すること。

月 次 損 益 計 算 書		(単位：円)
自 X1年4月1日 至 X1年4月30日		
I 売上高		35,000,000
II 売上原価		
1. 月初製品棚卸高	()	
2. 当月製品製造原価	()	
合 計	<u>()</u>	
3. 月末製品棚卸高	()	
差 引	()	
4. 原 価 差 異	()	()
売上総利益	<u>()</u>	<u>()</u>

(無断転載を禁ず)

受験番号：
生年月日：
氏 名：

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

第117回簿記能力検定試験

2級工業簿記⑤

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第5問 (20点)

[問1]

日ビ工業株式会社の山形事業部では、直接原価計算を採用している。下記資料に基づき当期の損益計算書を完成させなさい。なお、期末棚卸資産の評価方法は平均法を採用している。

1. 生産・販売データ

期首仕掛品	2,500kg (4/5)	期首製品	5,000kg
当期投入	51,500	当期完成品	50,000
合計	54,000kg	合計	55,000kg
期末仕掛品	4,000 (1/4)	期末製品	4,000
当期完成品	50,000kg	当期販売品	51,000kg

注：(1) 直接材料は工程の始点で全量投入される。

(2) ()内は加工進捗度を示す。

2. 原価データ

期首仕掛品原価	当期製造費用	期首製品原価
直接材料費 1,010,300円	直接材料費 20,589,700円	変動製造原価 6,013,750円
変動加工費 1,604,900円	変動加工費 39,195,100円	
	固定加工費 42,000,000円	

3. 販売および一般管理活動に関するデータ

販売価格	3,800円/kg
変動販売費	800円/kg
固定販売費	11,400,000円/年
一般管理費(全て固定費)	12,600,000円/年

直接原価計算による損益計算書

自 X2年4月1日 至 X3年3月31日

(単位：円)

I 売上高	()	()
II 変動売上原価		
1. 期首製品棚卸高	()	
2. 当期製品製造原価	()	
合計	()	
3. 期末製品棚卸高	()	()
変動製造マージン		()
III 変動販売費	()	()
貢献利益	()	()
IV 固定費		
1. 加工費	()	
2. 販売費	()	
3. 一般管理費	()	()
営業利益	()	()

[問2]

日ビ工業株式会社の盛岡事業部では、次期の利益計画を策定中である。下記資料に基づき各設問に答えなさい。

[次期の利益計画に関する予算データ]

1. 年間計画販売量	6,250個
2. 製品単位あたり販売価格	10,000円
3. 製品単位あたり変動費	6,000円
4. 年間固定費総額	18,000,000円

[設問1] 年間の損益分岐点販売量を求めなさい。

[設問2] 年間計画販売量における損益分岐点比率を求めなさい。

[設問3] 年間目標営業利益8,000,000円を達成するための年間売上高を求めなさい。

[設問4] 目標売上高営業利益率15%を達成するための年間売上高を求めなさい。